

平成 28 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月

1. 学校概要

学校名 東浦町立緒川小学校

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒470-2102
愛知県知多郡東浦町大字緒川字八幡7番地

E-mail hogashot@higashiura.ed.jp

Website http://ogawashou.blog119.fc2.com

児童生徒数 男子 265名 女子 275名 合計 540名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

1) ねらい

教育課程全体にE S Dの要素を取り入れて、全学年で実践を進める。

2) 実践内容

① 2年 えがおいっぱい お川の町 たんけんたん

ねらい 身近な地域の人やさまざまな場所に関心を持ち、見たり調べたりし、地域に愛着をもつ。

校区内の身近な12の施設(役場・図書館・郵便局・人形店・写真館・和菓子屋など)の中から学年を解体し、子ども一人一人の思いを大切にして探検場所を決め、学習する計画を考える。施設を見学するにあたり、活動班でインタビューする内容を考え、直接働いている人にインタビューすることで、ひみつや大切にしている思いについて知る活動を行う。その後、学年全体で報告会を開き、情報の共有を行い、相違点についての話し合いを行う。報告会を通して感じたことを深めるために、もう一度探検場所へ見学に行く。繰り返し見学しインタビューすることができたため、インタビューした相手からは、自分のことだけでなく、相手のことを思っていること、すなわち働き手の地域やお客に対する思いが伝わっていた。

見学したことを基に「見学場所ベスト3」として新聞にまとめる。クラスに戻り、今までの学習の成果を伝える発表会を行う。この発表会を通じて、子どもたちの中に緒川の町のすばらしさ、自慢できることが湧いてきた。緒川のよいところが分かる歌を創ろうと各クラスでグループを作り創作を行う。3クラスで12番まで緒川のよいところが伝わる歌が完成した。人のよさや緒川の人大切にしている思いを13番としてまとめ、全校集会で発表した。子どもたちからは必然的に、お世話になった施設に伝えたい思いが高まり、C Dにして配付をした。

② 3年 つながりさがそう～わたしと東浦・わたしと昔～

ねらい 今と昔を比べることで違いに気づき、自分について考え、目標を持ち行動することができる。

地域の老人会「東楽会」の方をゲストティーチャーとして、昔の遊びやくらしについて、戦争の頃の話について教えていただいた。遊びについては、現在のようなテレビゲームではなく、身の回りにあるものを工夫して遊び道具にしていったことについて知り、実際に竹ぼっくり、竹馬などを作って遊びの体験をした。戦争の頃の話については99歳のおばあさんから大人として感じた戦争、当時小学生の方からは子どもとして感じた戦争について話を伺った。質問に答えていただくことで、子どもたちは、戦争について「自分事」として考えられ、絶対に起こしていけないことであると感じた。学習の最後に、東楽会のみなさんに感謝を伝えるありがとうの会を行った。そこで、子どもたちが学習した今と昔のつながりと違いについて一人一つずつ発表した。

③ 6年 未来に向かって生きるわたしたち

ねらい 6年間の学習を振り返り、他との違いを見つめつつ自分がどう生きたかを考え続ける。

「自分事」として考えるというテーマをもとに、一人一人興味のある国と日本との違いについて調べた。一人一人の学びを保証するために、図書館より200冊を超える外国に関する書籍を借りてきた。じっくり情報を吟味してほしいという思いから、コンピュータではなく、書籍から調べ学習を進めた。発表会を行うことで多くの国と日本との違いについて知ることができた。また、世界と日本の関係だけでなく、自国の文化を深めるために、奈良への修学旅行を通して見学や体験を行った。薬師寺の説法や西大寺の大茶盛り体験は貴重な体験となった。その学習の成果を表現する場の一つとして、アートマイル事業への参加を行った。フランスの学校と共同制作を行うために、電子メールを用いて交流を行い、文化や習慣を伝え合った。互いのよさを認め合う作品を作ることができた。

3) 成果と課題

2年

子どもたちは毎年各施設を訪れ、多くの情報を得て学習させていただいている。今回は地域に還元することができるという思いと、実践した。教師が考えている以上に、子どもたちは学習の成果を地域に還元していきたいという思いが強いことが分かった。地域を愛する活動につながる学習となった。

3年

昔と今をつなげるためには体験をすることが不可欠であると感じた。子どもたちは体験を通じて今との違いを感じることができた。教えていただいた地域の方との関わりも深まり、思いやる気持ち、尊敬する気持ちを高める活動になった。

6年

実際に海外の同世代の人とアートマイル事業によってつながりをもつ活動は、国際社会を生きる子どもたちにとって貴重な経験になった。日本を紹介するためには、子どもたち自身が日本のことについて知る必要があることに気付くことができた。

ESDで育てたい力をまとめ、学年に応じた目標を設定したことで、学習や活動における具体的な手だてが講じやすくなった。手だての有効性を検証する方法を定め、実践を進める必要がある。また、横断的な学習を更に進めることができるよう、6学年を意識した教育課程の見直しをしていくことが必要である。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（)